



「ふね遺産」（推薦様式）：A4 一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	対象物： 第五福竜丸 所有者：東京都（公益財団法人 第五福竜丸平和協会）	
2. 対象物の作成・存在時期	第五福竜丸は和歌山県東牟婁郡古座町の古座造船所で鯉漁船第七事代丸として1947年3月20日に進水した。その後、清水市の金指造船所で鮪延縄漁船に改造され船名も第五福竜丸となる。1954年焼津港から出漁し、ビキニ環礁で水爆実験に被災する。1956年8月11日三重県大湊の強力造船所で練習船に改造され、東京水産大学練習船として実習授業を行なう。1967年に廃棄処分され東京都の夢の島に放棄されたが保存委員会により船体が陸上に固定化され1976年6月から現在地で都立第五福竜丸展示館が開館する。	
3. 現状 (写真添付)	東京都江東区夢の島 2-1-1 夢の島公園内の第五福竜丸展示館にて公開 写真： 船体 エンジン  	
4. ふね遺産認定基準の該当項目(**)	【認定対象】 (1)船船および機関、(2)諸記録・図書類、(3)保存工事記録 【認定基準】 (6) その他特筆に値し、消滅の恐れがあるもの (9) 生活や利便性の向上に顕著に貢献したもの	
5. 歴史的・工学技術的意義	戦後の食糧難の時代に建造された多くの木造鯉鮪漁船で現存する唯一の船である。 西洋型船の肋骨構造による現存する唯一の木造船 エンジンは新潟鉄工所製 250PS で、141 台製造された現存する唯一のもの	
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	・ 第五福竜丸展示館パンフレット（2005年4月） ・ 第五福竜丸保存工事報告書（1989年3月） ・ 庄司邦昭、海事遺産としての第五福竜丸の特徴について、日本船舶海洋工学会講演会論文集 第24号、pp.93-95（2017年5月） ・ 第五福竜丸 船内の記憶今も、朝日新聞、2017年7月14日 35面 ・ ニイガタディーゼル百年史、新潟原動機株式会社、2019年3月	

(\*) No.は学会で記載します。

(\*\*) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する最もふさわしい項目一つを、文頭の番号で記載して下さい。